

令和2年度 第1回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 令和2年7月13日（月） 午前9時30分～10時30分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）
- 3 出席委員 17名
河田委員長，内藤副委員長，菅野委員，鈴木克伸委員，鈴木恵治委員，新妻委員，小林純枝委員，松本委員，石塚委員，福田委員，大森委員，小林剛委員，深津委員，熊倉委員，小池委員，若園委員，増渕委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内容
 - (1) 報告事項
 - ① 令和元年度「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に関する施策事業の実績評価について
 - (2) 協議事項
 - ① 令和2年度栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について
 - ② 「うつのみや人づくり推進委員会」への委員の推薦について
 - ③ 「社会の要請」に対する学習の提言書について

7 発言の要旨

河田委員長	「副委員長の選出について」事務局より説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	事務局より説明がありましたが，何かご意見がございましたらお願いします。
河田委員長	特にご意見等ないようですので，事務局案を聞いてよろしいでしょうか。
全員	異議なし。
河田委員長	それでは，事務局より提案をお願いします。
事務局	【事務局より，内藤委員を副委員長に提案】
河田委員長	ただ今，事務局より提案がありました。内藤委員を副委員長に，という提案ですが，これについてご異議ございませんでしょうか。

全員	異議なし。
河田委員長	異議なしとのことですので、決定いたします。 それでは、内藤委員よろしく願いいたします。
内藤副委員長	みなさんおはようございます。ただいま承認をいただき誠にありがとうございます。今年度、文教国体常任委員会の委員長でこの会議に参加させていただきます。たくさん課題はあるかと思いますが、皆さま方とともに考え、また、委員長をサポートしていければと思いますので、どうぞ1年間よろしく願いいたします。
河田委員長	内藤委員よろしく願いいたします。 それでは、議事に進みます。報告事項①「令和元年度第3次宇都宮市地域教育推進計画に関する施策事業の実績評価について」事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	はい、ありがとうございました。ご意見、ご質問等ございましたらどうぞ。
小池委員	資料1の4ページで、「外国人住民に向けた地域理解促進」の講座について、新型コロナウイルス感染症の影響で実施ができなかったわけですが、講座の募集はしたのか、募集する前に中止になってしまったのか教えていただきたい。もし、募集をして申込みがあったのであれば、何名くらいの申込みがあったのかも教えていただきたい。
事務局	こちらの講座につきましては、募集する前に中止の決定をしたため申込みなどは受けておらず、人数についての把握はできていない状況です。
小池委員	6ページ目の「未就園児（満4歳）全戸訪問」についての確認ですが、例えば心理学を学んだ方やカウンセラーの方など、専門の方が一緒に同行するのでしょうか。それとも市の職員が行くのでしょうか。
事務局	令和2年度からの4歳児全戸訪問につきましては、まずは子ども家庭課で虐待対策等を担っている部署の職員が家庭訪問をした後、それぞれの家庭の状況を専門家も交えて協議し、虐待が疑われるケース、あるいは家庭教育や子どものしつけ等への対応が必要なケースなどに分類して必要な対応につないでいく流れとなっておりますので、最初の訪問時にカウンセラーの方などの同行はありません。
河田委員長	他に何かございましたら。
河田委員長	それではないようですので先に進みたいと思います。

河田委員長	協議事項に入ります。協議事項①「令和2年度栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について」、協議事項②「うつのみや人づくり推進委員会への委員の推薦について」、一括で説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	昨年度、県の協議会の評議員には私になりまして、人づくり推進委員は増渕委員に担っていただいております。社会教育委員の任期は今年度もあり、私の方としてはとても負担などというわけでもありませんので、事務局の案も踏まえ、このまま引き続き私が評議員を務めさせていただいて、増渕委員に人づくり推進委員をやらせていただければという案を出したいと思うのですが、みなさんいかがでしょうか。
全員	異議なし。
河田委員長	それではそのようにしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
河田委員長	先に進みます。協議事項③「社会の要請に対応する学習の提言書について」ですが、平成26年度に作成した提言書について、6年経ち、そろそろ新しい方向性を出していかなくてはならないかなと思いますので、みなさんの御意見等をお願いいたします。 まずは、資料の説明を事務局よりお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	今年度の提言書の進め方、作成の仕方などについての説明でしたが、その進め方について何か御意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。
小池委員	進め方の前に1点確認したいのですが、資料の1ページ目の1番、4つ目の丸に「地域の様々なステークホルダーと連携して」とありますが、ステークホルダーは一般的には「利害関係」という意味のビジネス用語なので、ビジネス用語をここで使うことが適切なのか、もしくは別の意味で使っているのか、分からなかったので確認させてください。
事務局	資料に記載しているステークホルダーは「利害関係」という意味で使用しております。小池委員ご指摘のとおり、確かにビジネス用語とされている言葉でもありますので、今後の表現については考慮してまいります。
福田委員	前回は平成26年度に作成しており、今回作成する提言書もまた5年、6年は使用していくような形でしょうか。

増淵委員

今回、第3次宇都宮市地域教育推進計画の実績評価の中で色々な事業の報告をいただいた時に、事業番号2の「ICTに対応した学習の推進」がC評価であったように、令和4年度には全ての事業について講座数や利用者数などの量を増やすというような方向性を出されている訳ですが、量が増えれば質が上がるという訳ではないと思います。最近のコロナのことで例えてみても、検査数が増えたから感染者数が増えたという部分で解釈するのではなく、検査の数より陽性率が今までより高くなっているから危機度が高まっているのだと、その内実の方を問題にしなければならないと思います。事業等においても、数が増えればいいという風に考えると担当者の苦労はものすごく多くなり、コロナによる医療などと同じように破綻してしまうこともありえますので、提言をする場合でも、それを裏付けるような客観的な根拠やエビデンスがないと、単なる絵に描いた餅のようになってしまう危険もあります。ですから、前回の提言書を踏まえてというのは当然だと思いますが、今、Society5.0や学校ver3.0などで個別最適化の方向性が示されているとすれば、この提言書を考える場合にもAIやICT、IoTなどを踏まえ、生涯学習としてどのように関わっていくかを今後考えていかざるを得ないだろうと思います。

また、同時にもう1つ、国がコミュニティスクールを提案し、学校と地域社会の連携・協働の関係性を構築することが必要であるとしている中で、提言の内容にはコミュニティスクールのことも含まれていくのではないかと思います。そのようなことを踏まえながら、今後、意見をとりまとめていただければ個人的にはありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局

Society5.0の話や、量だけに目を向けるのではなく中身にも目を向けていくというのは、これまでも心掛けておりますし、その点は十分に力点を置いて新しい提言にも盛り込んでまいりたいと思います。また、コミュニティスクールの問題などにつきましても、様々な情報を引き出しながら提言書の要素として組み込んでいけるように勉強してまいりたいと思っております。

河田委員長

教育を考えた時に、どうしても私たちは学校教育という部分を重視してしまう部分がありますけども、このような世の中で学校教育でも様々な問題を沢山抱えており、これから社会教育という部分に相当な力を注いでいかないと子どもたちを守ることができないのではないかとこのころがありますので、このへんをしっかりと考えていかななくてはならないなど、今話を聞いていて思いましたので、ぜひ皆さま方のお力添えをいただいて素晴らしいものにしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

河田委員長

他に何かございますか？

河田委員長

それではよろしいでしょうか。これで本日の議事が全て終了いたしました。

事務局

事務局の方にお返しいたします。どうもありがとうございました。

河田委員長，進行ありがとうございました。
それでは，次第の6「その他」になります。
事務局より連絡事項について説明させていただきます。
【次回の会議日程について説明】

本日は長時間に渡ってのご審議，誠にありがとうございました。
以上をもちまして，令和2年度第1回社会教育委員の会議を閉会いたします。